



「ひょうきんな上2人に囲まれて
すくすく育ってます。」

ちか
鈴木知佳ちゃん・ねねちゃん・宗次郎ちゃん
H10.8.25生 H16.7.26生 H12.7.5生
(四番町)



「雪の降った12/31 兄妹3人
仲良く雪だるまを作りました。」

小川大貴ちゃん
H7.10.27生

のぞみちゃん・真央ちゃん
H11.10.15生 H14.9.25生
(馬飼)



「元気でたくましい子に
育ってね」

河田空大ちゃん (富岡)
H16.10.12生



「明治の偉人一同に集結。ご覧に
なりたい人はいつでもどうぞ。」

本原 英二さん (富岡)



「可愛い孫のお雛祭り」

丸山真由ちゃん・華央ちゃん (笠岡)
H14.8.2生 H16.8.8生

あなたのお家の自慢できる
人や物を紹介します。我が
家のアイドル(子どもたち)、
家族に人気者のペット、家宝、
自分だけの宝物…。そんな
自慢に一言メッセージを添
えてまちづくり推進課まで
送ってください。

展覧会と講座の ご案内

「竹喬の表紙絵と挿絵」
～4月24日(日)

「天皇の世紀」挿絵や、
竹喬が絵・文を担当し
た「瀬戸内海絵行脚」
などを展示中。

連続講座「竹喬を語る」
第2回

「国画創作協会での活躍」

5月15日(日)

13:30～15:30

お申込みは竹喬美術
館まで。(入館料のみ
必要)

〒714-0087
笠岡市六番町1-17
☎63-3697
ホームページ
<http://www.city.kasaoka.okayama.jp/0013/0001.html>

連載小説「天皇の世紀」は、当初の予定をはるかに越えて一五
五回まで続いた。そのうち竹喬が担当した挿絵は二四〇点にの
ぼり、連載開始当時七十八歳であった竹喬も終了時には八十四歳
となっていた。その間も通常の作品は描かれ続け、文化功労者の
表彰を受けたり、また竹喬の健康を案じていた妻を亡くしたり
と、平たんではない日々を送っている。

「花に早い京の春の趣……かつて嵐山では柴(しば)を積ん
だ舟が下ってくるのもそのころであった。この川を越して見る小
倉山の頂も、まろやかである。こんど市が、ここを史跡―風致保
存のために買うことになったのは、ちかごろのうれしい知らせで
あった」という言葉が添えられている。

枝越しに空を仰ぐ構図は挿絵以外でもたびたび見られるが、挿
絵ならではの、色彩を伴わない空はあらゆる時間に受け取れる。
硬い幹からは木の新芽が出ており、そのやわらかですこやかな様
子に、春の兆しに対する竹喬のほのかな喜びが感じられる。



「新芽」

小野竹喬作
朝日新聞「天皇の世紀」挿画
昭和48年3月22日掲載
16.2×20.6cm

竹喬美術館の光彩 28



Matsuura Mukaiharu

発行日/平成17年4月1日
発行/笠岡市役所
編集/まちづくり推進課
〒714-8601 笠岡市中央町1-1
☎69-2110

印刷所/株式会社正文社印刷所 ☎66-1687



※この広報は再生紙を使用し地球環境にやさしい
植物性大豆インキで印刷しています。

R100 古紙配合率100%の再生紙を使用しています

今月の表紙
「六島」に輝く「六人」
の宝。記念すべき広報紙「6
00号」の表紙は、六島に
住む元氣いっぱいの子ども
たちです。

意外にも、六島に住んで
いながら、ほとんどの子が
灯台にやって来るのは初めて
写真撮影後は、陽気な春の
日差しの下、いつまでも元
気に灯台の周りを駆け回る
姿に、明るい未来の六島を
見た気がしました。

係から

早いものでもう新年度の
始まり。そしてこのきりの
良い季節に「広報かさおか」
もめでたく600号という
ことで、中身も少しだけリ
ニューアルしてみました。
いかがでしたか？

これから700号・80
0号へ向けて、皆さんに愛
される広報づくりを目指
していきたいと思います。
今後とも「広報かさおか」
をよろしく願います。

(向)

笠岡市ホームページ: <http://www.city.kasaoka.jp>
メールアドレス: machizukuri@city.kasaoka.okayama.jp